観点・小問ごとの分析	対策の視点
3 語句を読む 一、対義語がわかる 1.「手をふり上げる」↔「手をふりおろす」(86%)、2.「ごみをひろう」↔「ごみをすてる」(83%)である。 誤答の例は次の通りである。 「ふり上げる」↔「ふりまわす」 「ひろう」↔「とる」	○ 対義語は教材にそのどちらかが出て来た時にいっしょに教えると、語いふやし、また、その一方の語の理解をいっそう深めるであろう。 ○ 児童が経験的にふれている言葉を積極的に取り上げて、対義語について関心を向けさせることも大切である。
二、類義語がわかる 1.「道路」(71%)については、「あるく」とした誤りが多い。 2.「病気」(51%)は「いしゃ」「やすむ」「ねる」の順で誤りがみられた。ここでは、「やまい」という同じ意味をもつ語があまり理解されていないことがわかる。	○ 指導に当たっては、場や相手によって使い分けられることを知らせたり、語感の違いに気付かせたりすることが大事であろう。 ○ ふだんの授業の中でも意味が同じだったり、よく似ている語を言わせたりすると、語句も豊かになるであろう。
三、語句の意味がわかる 1.「ひやかす」(70%)は「こまらせる」、2.「なんとなく」(51%)は「すこし」「とても」、3.「しだいに」(84%)は「ゆっくり」という誤答が多かった。	○ 教材文に出てくる新しい語句については、本文の文脈の中で理解を図るとともに、短文で示して意味を考えさせることも大切であろう。 また文章を書くときには、理解した語句を正しく適切に用いられるよう指導したい。

観点3(語句を読む)について

○ 観点正答率は71%で他の観点に比べてよい結果を示している。しかし、細かに見ておると、高いものと低いものがあり、指導の一貫性がほしい。

語句の指導は言語事項の中でも重要であるので、他教科においても、児童の語いが豊かになるような指導を図りたい。

類義語については、授業の中で、特に取り上げて指導し、練習させるという方法がとられてもよい。